別記様式（第４条関係）

令和８年１０月２０日

会議録

| | |
|---|---|
| 会議の名称 | 令和８年度第１回加東市総合教育会議 |
| 開催日時 | 令和８年８月２５日（火）午後３時００分から午後５時１０分まで |
| 開催場所 | 加東市役所　２０１会議室 |

出席及び欠席委員の氏名

＜出席委員＞

・市長　岩根正　　・教育長　藤原路寛

・教育委員　田中寿一、後藤純子、岸本惠一、別惣裕美子

＜欠席委員＞

なし

説明のため出席した者の職氏名

・教育振興部長　長田　徹　　・教育総務課長　堅田　美佳
・教育総務課副課長　小笠原　和慶　　・生涯学習課長　松本裕介
・中央図書館長　藤田智架子　　・こども未来部長　近澤孝則
・こども未来部参事兼学校教育課長　森本　恭央　・付課長 兼 学校教育課部活動推進室長　郡　龍仁
・小中一貫教育推進室長　髙田篤　　・小中一貫教育推進室副課長　泥谷　智明
・発達サポートセンター所長　鷹尾　有紀　・発達サポートセンター 教育相談支援員　小林　茂
・こども教育課長　長谷川貴子　　・健康課副課長　下崎　ユカ
・社会福祉課長　片嶋　美紀

出席した事務局職員の氏名及びその職名

・まちづくり政策部長　藤原英樹
・企画政策課長　岸本純子　　・企画政策課副課長　丸山耕市
・企画政策課係長　藤原　恵　　・企画政策課主事　富田　真由

１　議題

（１）第２期加東市教育大綱における各施策の取組状況について
（２）発達サポートセンター「はぴあ」の取組について
（３）その他

２　会議の結果及び経過

⇒別紙「令和８年度第１回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過」のとおり

（別紙）令和８年度第１回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過

| 発言者 | 会 議 の 結 果 及 び 経 過 ／ 発 言 内 容 |
|---|---|
| | **１　開会**<br><br>**２　市長あいさつ**<br><br>**３　協議** |
| 事務局 | （１）第２期加東市教育大綱における各施策の取組状況について<br>まずは内容について事務局から説明します。<br><br>資料１に基づき事務局から説明 |
| 司会 | 本協議事項について、ご意見などありますでしょうか。 |
| 委員 | 「かとう学副読本を活用した教科数」について、目標が全教科に対して実績が８教科のため未達成とありますが、全教科で使うことにこだわる必要はないと思います。８～１０教科であれば達成とするのが現実的ではないでしょうか。 |
| 職員 | 教員へは、かとう学を副読本として特に社会や総合的な学習に使用していくことを研修で伝えています。加東市にしかないことを学べるため、児童も喜んで使用しています。 |
| 委員 | 学習等に対する意欲について、小中一貫校が開校し、生活環境や学習環境が大きく変わった中で、これからどう変化していくのかが大切だと思います。 |
| 職員 | 学びの環境の変化は、３年間を単位として観察するべきだと考えています。全国学力状況調査においても、小学６年生時の結果と、３年後の中学３年生（９年生）になった時の結果について、全国と比較してどのように変化したかをみていきたいと思います。 |
| 委員 | 「サポートファイルによる支援が不要になった児童生徒の割合」や「学校生活実態把握調査に困ったことを書く延べ人数」は多ければいいのでしょうか、少なければいいのでしょうか。１人１人を見ていかないといけない中で、数で評価するのは難しいです。同じ程度の実績で推移していれば、安定していることを評価してもよいと思います。評価指標は今後検討をお願いします。 |
| 職員 | 「サポートファイルによる支援が不要になった児童生徒の割合」は、令和７年度は令和６年度と比較して半分程度になっている理由は、サポートファイルを作成している人数(全体人数)が増えたためです。今は高校卒業までにサポートファイルが不要になった人数の割合で見ていますが、生涯通じての支援という面でいえば、別の指標を考える必要もあるかもしれません。<br>「学校生活実態把握調査に困ったことを書く延べ人数」は、当初は様々な方法で相談しやすい方が望ましいと考え、数値を上昇させる目標を設定しました。人数は減っても、しっかり相談対応ができているのかという観点も含め、今後評価していきたいと思います。 |
| 委員 | 見守り隊が始まって２０年以上が経ちますが、人口減少の中で各地区の見守り |

| | |
|---|---|
| | 隊も高齢化し、徐々に活動者数が減っているのが現状です。<br>人口減少等、社会状況が変化する中で、参加人数を指標とするのは難しい場合があると思います。 |
| 職員 | ご意見のとおり、見守り隊の高齢化が進んでいます。夏の暑い時期などの心配もあります。自主性に基づいて、無理のない範囲で見守り活動をしていただくよう見守り隊の皆様にお伝えしています。<br>社学園では、昨年度、学校運営協議会で区長、PTA 等と負担感の解消など、新しい見守りの方法を協議し、今年度４月より実施しています。<br>東条学園でも見守りマップの作成により、「見える化」をしています。 |
| 委員 | 美術展の来場者数も人口が減っている中で、常に人数を増やしていくことを目標にするのは現実的でないと思います。人口１００人当たりなどの方法で評価していかないといけないのではないでしょうか。 |
| 職員 | 以前は秋のフェスティバルと同日開催にしていましたが、開催方法を変更したことが来場者数に影響を与えたと考えています。減少傾向ですが、応募点数は他市より多い２００～３００点台となっています。ご意見のように１００人当たりにするなど、実行委員会の取組が反映されるような指標設定を検討していきたいと思います。 |
| 委員 | 「児童生徒アンケート」という別の資料と今回の会議資料を見ると、数字の印象に差を感じます。具体的には、「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」の数字が下がっていて、今回の会議資料では、昨年度は４２．１％という結果です。子どもたちは今たくさんの習い事をして、本当に自分が好きなことを自主的にできていない子がいるのかという印象を持ちました。一方で、「児童生徒アンケート」では「そう思っている」「どちらかとそう思っている」の割合になりますので、割合が倍程度になります。そう捉えると、これは達成と考えてもいいのではないかと思います。同じく「人が困っているときは、進んで助けていると思う児童生徒の割合」も、今回の会議資料では半分に満たない一方で、「児童生徒アンケート」では９０％以上になります。数字の見え方をもう少し現実の印象に近づけられないでしょうか。 |
| 職員 | 数字の見え方については、次期計画には肯定的な意見を拾い上げることを検討していきます。 |
| 委員 | 「不安や悩みがあったときに、相談できる人がいる児童生徒の割合」は、実績９０％以上が続いており、いい傾向だと思います。一方で、数％の児童生徒が相談できる相手がいないということになり、この部分が大事だと思います。相談場所があることを子どもたちに分かってもらい、目標も実績も１００％にする必要があると思っています。 |
| 職員 | 対面での相談が大切だと思っていますが、一人一台配布しているタブレットには、チャットや電話で連絡できる県の相談窓口を貼り付けています。このような窓口があることや、大人だけでなく友達でもいいので一人で悩むことなく相談することを呼びかけていきます。夏休み明けにも呼びかけます。引き続き１００％を目指していきます。 |
| 委員 | 「小学生チャレンジスクールへ年に１回以上参加した児童数」が数値だけ見る |

| | |
|---|---|
| | と達成率が２１．１％と低いです。１０年ほど前は毎回抽選になるほどだと聞いたこともあります。子どもたちの興味が変わっているのか、土日に習い事をしているのか、家族でのお出かけを優先されているのかなど、理由が見えてこないと改善は難しいと思います。 |
| 職員 | 過去にはキャンプやスキーをしていましたが、今は物づくり体験や夏休みの工作、防災体験など、半日で２０人程度の規模のものが多くなっています。また、昨年は協力団体と日程が合わず実施できなかった事業もあります。<br>一方で、参加者アンケートでは９割以上が満足したという結果になりました。子どもたちの満足度も大切にしながら事業を実施していきたいと考えています。 |
| 委員 | アンケートは、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の４つの選択肢がありますが、「どちらともいえない」という選択肢が入った場合にどういうバランスになるのかが気になります。 |
| 職員 | 「どちらともいえない」という選択肢について検討します。 |
| 委員 | 「学校の授業がわかると答える児童生徒の割合」が達成率１０１．９％と高く、素晴らしい結果です。また、「人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合」「不安や悩みがあったときに、相談できる人がいる児童生徒の割合」も達成率としては悪くないと思います。一方で、「学校生活に満足する児童生徒の割合」が目標６８．０％に対して実績４０．８％（達成率６０％）は低い気がします。現場の先生方がどう思われているのか聞いてみたいです。 |
| 職員 | 「学校生活に満足する児童生徒の割合」では「とても楽しい」と回答した児童生徒の割合を実績としています。「楽しい」を合わせると９２．７％で、楽しくないは７％です。授業の中で分からないところがあった、友達とうまくいかないことがあった等、自分の中で解決できないことが楽しくないということにつながったのではないかと考えています。引き続き、ためらわずに自分の困っていることを相談する、嫌なことを伝える、表現できるように、学校や保護者と連携して取り組んでいきます。 |
| 委員 | 「地域子ども教室への延べ参加児童数」について、実績のふれ幅が大きいのは理由があるのでしょうか。 |
| 職員 | 令和３年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で減少しています。令和７年度は小中一貫校の開校により、５つの小学校で実施していたものを１か所に集約したことが影響しています。 |
| 委員 | 指標だけでなく、子どもにどう影響しているかに注目して資料を見ました。<br>「学校の授業がわかると答える児童生徒の割合」について、全員が分かるのは難しいですが、分からないことを困りごととして思っている児童生徒に対して、一人一人に応じた学習の支援につなげてほしいと思います。 |
| 職員 | 「学校の授業がわかると答える児童生徒の割合」では、約１割の児童生徒がわからないと回答しており、まずはそのことを先生がしっかり認識することが大切です。何に興味があるのか、何が得意かを見つけられるような声掛けや手助けを、夢授業にも取り組みながらしていきたいと思います。また、兵庫教育大学の学生 |

| | |
|---|---|
| | を学習支援員として個別に支援しながら、「わからない」１割の子たちに寄り添いたいと思います。 |
| 委員 | 保育士のキャリアアップについて、ある男女共同参画の会議で、保育士が研修に参加したくてもできないという意見がありました。加東市では、研修に参加したい保育士が参加できる環境にあるのでしょうか。 |
| 職員 | キャリアアップ研修については、当初は参加しにくいとの意見もありました。今は土曜日や夕方に開催するなどの工夫をしています。また、県の研修はオンラインのものもあり、活用している方もあります。実績は、対面研修の人数のみ計上しているため数値は減少していますが、一定の効果はあると考えています。 |
| 委員 | 加東伝の助マラソン大会について、目標人数に比べて参加人数が伸び悩んでいるように感じます。子どもの数が少なくなっている中で参加者数の確保は難しいと思いますが、単なる市民のスポーツ大会だけでなく、達成感や地域のつながりを感じられる交流スポーツ事業になればいいと思います。 |
| 職員 | 以前は駅伝競技があり、参加者も２，０００名近くありましたが、今は個人種目のみとなっています。新型コロナウイルス感染症拡大により減少していた参加者数も回復傾向にあります。親子ペアや低学年の児童にもたくさん参加いただいているため、学校からの呼びかけなど、ＰＲをしていきたいと思います。また、地域のボランティアも募集しているため、地域を巻き込んで盛り上げていきたいと考えています。 |
| 教育長 | 「英検３級相当以上の英語力を有する中学３年生の割合」について実績が５１．５％であるが、県は４２．４％であり、加東市の方が高い結果となっています。全国は５４．６％で加東市の方が低いです。この「英検３級相当」は教師によって判断基準が異なるため、評価が難しいです。英検３級以上取得している割合は加東市が３９．１８％、県は２３．７％、全国が３２．６％で加東市は高くなっており、英語教育の推進が成果に表れていると考えています。<br><br>「ふるさと学習を通じて、ふるさとを大切にしたいという気持ちが芽生えた児童生徒の割合」について、３・４年生の社会科に特化した別冊ができたことが良かったと思います。社会科の指導が苦手な教員にとっても使いやすく、この別冊は児童の意欲を喚起する意味でとても良かったと評価しています。<br><br>「加東市産・兵庫県産食材を用いた年間献立率」の割合が減った理由は何でしょうか。引き続き加東市産食材を使用して欲しいと思います。 |
| 職員 | 昨年は高温の影響で加東市産玉ねぎが不作となり、急遽、「兵庫県産」や県外産に変更したため割合が減少しました。 |
| 市長 | 「学校の授業以外で、平日に１時間以上学習する児童生徒の割合」が６割ですが、これは非常に低いのではないかと思います。好きな科目がないのが原因ではないかと思っています。「英検３級相当以上の英語力を有する中学３年生の割合」について、英検３級は中学３年生卒業時の学力だと思いますが、合格率３９％です。アメリカに行ったら中学レベルの単語で会話ができますので、中学生英語はとても大事です。「英検検定料助成を利用した中学生の割合」が令和７年度に約１割減ったことも気になります。 |

| | |
|---|---|
| 職員 | 数値について、危機感を学校とも共有します。 |
| 市長 | 「将来の夢や目標を持っている生徒の割合」が４２．１％であることも非常に低いと感じます。自分の得意なものを持てていない印象を受けました。年々実績が下がっていることも気になります。 |
| 職員 | 現時点で夢がなかったとしても好きなことを見つけ、小さくても構わないので目標を持てるようにアドバイスする等、引き続き取り組んでいきます。 |
| 市長 | 「自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合」が３２．６％、「人が困っているときは、進んで助けていると思う児童生徒の割合」が４５．７％であり、低いと思います。人間性が育っているのが加東市の強みであると思いますが、どうして低いのでしょうか。 |
| 職員 | 気づいていても周囲を気にしているところもあると思います。<br>自分一人でできなければ周囲の力を借りたり、困っている人に手を差し伸べたりすることも大切だということを伝えていきます。 |
| 市長 | 「朝食を毎日食べている児童生徒の割合」が８３．１％で１０人中２人が食べていません。家庭の問題ではありますが、学校としてある程度は把握をして、家庭に働きかけないといけない問題だと思います。 |
| 職員 | 必要に応じて家庭面談をしています。 |
| 市長 | 「学校生活に満足している児童生徒の割合」が４割です。中学生は多感な時期なので友人関係などで満足できないなら分かりますが、そうでないなら問題だと思います。 ４割の意味を深く探るべきだと思います。 |
| 職員 | これまでからも満足していない児童生徒への働きかけを行ってきましたが、満足していない児童生徒がいることを前提に、児童生徒の能力を見つけて、認めて褒めるような関わりをこれからもしていきます。 |
| 市長 | 「学校生活実態把握調査に困ったことを書く延べ人数」が４３１人とありますが、学校でしっかり対応できているのかが気になります。 |
| 職員 | 学校で学力をつけないといけない一面はあると思いますが、思春期の子どもたちの一番の悩みである人間関係の中で満足するかしないかがアンケートの大きな部分を占めています。その中で満足度を上げていくのは難しいこともご理解いただきたいと思います。 |
| 市長 | 人を育てるのは非常に難しいし労力もかかります。タブレットを活用した授業の教材づくりや、小中一貫校の開校もあり、先生方に相当の負荷がかかっています。今、先生方は一生懸命頑張っていますが、成果としては十分に表れていない状況の中で、何が足りていないのか見つめ直していただきたい。<br>教育委員会と学校現場はよく連携し、言いたいことをぶつけてほしい。この数年間が踏ん張りどころで、加東市の教育としてしっかりと確立する一番大事な時期です。それができれば、加東市として胸を張れる誇りのある教育ができると思っています。先生方には頑張っていただきたいと思います。 |

| | |
|---|---|
| | （２）発達サポートセンター「はぴあ」の取組について<br>まずは内容について事務局から説明します。 |
| 職員 | 資料２に基づき、発達サポートセンター職員から説明 |
| 司会 | 本協議事項について、ご意見などありますでしょうか。 |
| 委員 | これから発達サポートセンター「はぴあ」の取組の幅を広げていくためには、人員体制を整えることが必要だと思います。また、最終的には就労支援が一番大切で一番難しいと思います。ここを支援するためには関係機関と連携がとれる専門職の配置が必要だと思います。 |
| 職員 | 発達サポートセンター「はぴあ」が行っている事業は非常に専門性の高いものであり、人員体制の確保が一番大切で、かつ難しいと考えています。<br>現在、「はぴあ」の中では就労支援相談専門の職員はいませんが、就労相談は社会福祉課で担当しています。「はぴあ」がどこまで支援するのか、どの部署がメインで担うのか、どういった役割をどこが担うかは、社会福祉課や学校教育課と連携・調整しながら進めていく必要があると考えています。<br>支援をさらに充実させるためには人員増が必要です。「はぴあ」はいろんな方と連携しながらニーズに応えていくということが大きな役割です。専門家の講師による研修会の開催など、先生方の指導力向上にも継続して取り組み、それが保護者の安心につながると思っています。 |
| 委員 | 同じ子は一人もいない中で、一人一人に対して職員が時間をかけて話をされていて、一生懸命取り組んでいただいていると感じています。保護者は「はぴあ」の存在が心強いと思います。<br>最近の保護者は以前に比べると発達障害への理解や知識が深まっているという印象でしたが、相談件数が減っているのが気になります。保護者に言える状況になると、適切な支援を受けなければならない子が支援を受けられるようになるのではないかと思います。 |
| 職員 | 相談件数が減ったのは、オンライン予約システムを導入したことで予約に関する電話の件数が減少したことが１つの要因です。巡回相談の記録も計上方法を令和７年度に変更したため、相談件数が減少しています。<br>また、相談に行けない保護者に向けて、令和６年度に「はぴあプラザ」を開設し、子どもを遊ばせながら相談できる体制を整えました。「はぴあ」への相談は、乳幼児健診から案内されることも多いため、関係課と連携しながら相談の機会を増やしていきたいと思います。 |
| 教育長 | 令和１１年、北はりま特別支援学校の分校が、三草小学校跡地にできます。今後は特別支援学校とも連携しながら進めてほしいと思います。 |
| 市長 | 専門職の確保は難しい部分ですが、取り組んでいきたいと思います。 |
| | （３）その他<br>意見等なし |
| | **４　閉会** |